

初級・中級者のための発信型学習英和辞典とコーパス

塚本 倫久

Abstract

The knowledge of vocabulary is normally divided into receptive and productive categories. For most students the amount of productive vocabulary is usually less than that of receptive vocabulary. In the case of Japanese students the difference between them is said to be remarkable. Increasing their productive vocabulary is the key to putting vocabulary knowledge to practical use.

Nowadays we can investigate a large amount of corpus data. We can, therefore, pick out the typical collocations and patterns of a certain word through examining corpus material. The structure of the English and Japanese languages varies greatly. So we have to be careful when trying to remember the collocations and patterns of words in English. It will be useful for Japanese students to remember typical examples based on corpus data. In this paper I will discuss how to use corpus data for compiling a basic or intermediate level generative English-Japanese Dictionary.

0. はじめに

本稿では基本語彙習得と辞書の役割、特に発表語彙を増やし運用能力を高めるために初級・中級学習者向け（中学，高校初級程度）の辞書にコーパスの情報がどのように生かされるべきか，どのような情報が必要なのかに焦点をあてながら Bank of English（以下 BOE）（2003年10月現在，約4億5000万語）の資料を用いてみてゆくことにする。

語彙の知識は大きく reading や listening において意味が理解できる受容語彙（receptive vocabulary）と speaking や writing において活用できる発表語彙（productive vocabulary）にわけられる。通例，発表語彙数は受容語彙数に比べて少ないが，日本人学習者の場合はとくにその差が大きく発表語彙は受容語彙の2分の1という指摘もある（望月他2003）。日本人学習者にとって発表語彙をいかに増やすかということは運用能力を向上させる上で鍵となるであろう。一般に受容語彙は親密度が増すにつれて徐々に受容語彙から発表語彙に変容して

いくとされている。日本語とは言語構造が異なる英語を学習する日本人学習者にとって、語の知識を受容語彙から発表語彙に発展させる過程はかなり意識的にすることが必要となろう。そのために辞書の果たす役割が大きいことは言を俟たない。辞書は受信、発信の双方の情報を盛り込んでいるが、従来の学習英和辞典はもともと主に受信のために編纂された紙面に、様々な発信情報を取り込みながら発展してきたのではないだろうか。現在出版されている辞典には動詞型、形容詞型、名詞の可算・不可算、コロケーション、話し言葉と書き言葉の表示、ラベル表示、選択制限、日英の語義比較、用法解説など多くの発信情報が盛り込まれている。個々の記述は有益であるが、これらの情報の中から学習者が必要な情報を的確に引き出しているかどうかには疑問も残る。また、発信情報をコロケーションなどのコラムで示しながらその他の部分では旧来の記述をしている。もし、日本人学習者に発表語彙が少ないという弱点があるならば、それを補う日本人学習者に適した新たな辞書編纂法、あるいは発信型に用途を定めた辞書があってもよいであろう。

コーパスの発達は、頻度に基づく言語情報、話し言葉と書き言葉の違いなどを提示することを可能にし、学習辞典の編纂に画期的な成果をあげている。内容の充実した初級・中級用の学習英英辞典も次々と出版されているが、このレベルにある日本人学習者が使いこなすのは難しいようである。日本人学習者に対して、中学、高校初期の段階から発信の英語力を強化するためにどのような辞書の記述をしたらよいのかを考えてゆくことにしたい。具体的な考察をする前に、まず学習の基本となる基本語彙についてみておく。

1. 基本語彙リストと辞書

初級学習者用辞書にどのような語彙を盛り込むべきか、何をもって基本語とするかについては議論のあるところだが、EFLの歴史の中ではこれまでいくつかの基本語彙リストが編まれてきた。代表的なものとして Michael West による *A General Service List of English Words* (1953)、Thorndike & Lorge *Teacher's Word Book of 30,000 Words* (1944)、わが国では *JACET Basic 4000 Words* (1993)、北海道大学英語語彙表 (1999)、*JACET List of 8000 Basic Words* (2003) などがある。近年はコーパスの発達とともに客観的に頻度を分析することにより、綿密な基本語の選定が可能になってきている。上述の *JACET List of 8000 Basic Words* (2003) は *British National Corpus* を基準データとし、検定教科書、雑誌、新聞、映画、センター試験、STEP、TOEFL、TOEIC などのサブコーパスデータと照合して「中高語彙の復習から英字新聞などで頻出する時事的な用語の習得にまで対応」したコーパスに基づいた語彙リストである。

このような基本語彙リストを辞書の編纂に応用したものには *LDOCE*、わが国では『(ニュー)プロシード英和辞典』(1988, 1994) が挙げられよう。*LDOCE* は上記の *A General Service List of English Language* に基づいて基本2000語で語義解説をしている。『ニュープロシード英和辞

典』は「英字新聞や雑誌、日常会話やビジネス用語、テスト、教科書、日本人の誤りやすい語、新語等を含む6分野72編の素材、延べ131万7,642語を新たに収集分析し、その結果得られた4万7,066語の異なり語のうち頻度の高い上位5,000語を「新キーワード」として重要語に定めている。また、最初にコーパスを本格的に利用して編纂された *COBUILD* は高頻度の語彙を◆◆◆◆のような記号を用いて5段階(8,100語)に分けて頻度数を示している。*COBUILD* によれば上位2つの記号(1900語)ですべての英語の75%をカバーするとしている。竹蓋(1982)は小説 *Love Story* 会話部分の語彙数を分析し、異なり語数(type)で1,310語で構成されていると報告している。これは日常会話で用いられる語彙数はそれほど多くないことを示すものといえよう。このようなことから、改めて基本語の習得が英語を学習する上で重要であるということが明らかになってくる。わが国の英語教育では中学・高校あわせて2200語程度を学習することになっている。まずは基本2000語から3000語を使いこなせることが初級学習者にとって当面の目標となるであろう。望月他(2003:99)は「3000語というレベルは日本人学習者がめざす現実的なレベルと考えていいでしょう」と述べている。それでは、基本3000語を発表語彙としてマスターするためにはただ言ったり書いたりして普段の学習の中で接していれば自然に身につくものなのであろうか。

コーパスからの語彙頻度をもとに語彙の主要な意味と用法を自然な言語使用場面と結びつけて提示する教授法である *lexical syllabus* を提唱した Willis (1990:40-1) は、‘We should take care that the language to which the learner is exposed is typical of the language as a whole. This can only be done by research. We need to look seriously at the language and make principled decisions about what patterns and users are to be regarded as typical and to be highlighted for the learner.’ と述べている。コーパスから得られるデータを検証し、語彙が典型的に取るパターンを学習者に提示することは発信のための語彙を効率的に習得する上で大切なことであろう。コーパスを検索することにより語彙の典型的に取るパターンやフレーズを検証することができる。Pawley and Syder (1983:192) は ‘The stock of lexicalized sentence stems known to the ordinary mature speaker of English amounts to hundreds of thousands.’ と述べているが、ネイティブスピーカーはこのような ‘lexicalized sentence stem’, を無意識のうちに自由自在に使いこなして文を生成していると考えられる。運用能力を高めるためには、従来重視されてきた時制、仮定法、受動態といった文法構造と併せて、コーパスから得られる情報をもとに学習の初期の段階から典型的な語のパターンやフレーズを提示し、それを記憶し運用に生かすことによって語感を養っていくことが重要であろう。以下、いくつかの観点から基本語の辞書記述について論じていくことにする。

2. コーパスを用いることにより英和辞典の記述がどう変わったか

まずコーパスに準拠した辞書の記述が従来の辞書のそれとどのように変わったかを見ておく。学習英和辞典の記述のサンプルとしてA英和辞典とコーパスを用いて編纂されたB英和辞典で名詞 *influence* の記述を比較検証してみる。

in·flu·ence

/ɪnfluːəns|ˌfluːəns/ ④ (-flu-ences /-ɪz) 1 ㉞㉟

影響: 効力, 効果, 感化 (㉞類義語; ㉟類義語)

④ [単語の記憶]: the *influence* of Western civilization on Japan 西洋文明が日本に与えた影響。 This tendency is due to the *influence* of television. この傾向はテレビの影響によるものだ。

2 ㉞ 影響力, 勢力, 感化; 権力; 手つづ, コネ: a person of *influence* 有力者 / strengthen one's *influence* 影響力を強める / peddle *influence* 汚職をする / Will he use his *influence* (with the president) to get you a job? 彼は君の就職で(社長に)口を利いて[手を回して]くれるだろうか?

3 ㉟ 影響力のある人[もの], 実力者, 有力者: She is a good [bad] *influence* on the students. 彼女は学生によく[悪い]影響を与えている / He is a powerful *influence* in this city. 彼はこの市の大物だ。

④ [語源] ラテン語で「流れ」(㉞「単語の記憶」) 込む (㉟「in-」) の意で、「(天体から人の心に)流れ込むもの、流れ込むこと」→「感化」、「影響(力)」となった。

単語の記憶

- FLU (流れる)
- influence (天体から人の心に流れ込むもの) → 影響
 - influenza (体内に流れ込むもの) → インフルエンザ
 - fluent (流れるような) → よどみのない
 - flood (あふれて流れるもの) → 洪水
 - fluid (流れるもの) → 流動体
 - superfluous (あふれて流れる) → 余分の

have (an) *influence* on (upon, over)... [動]

㉞ ...に影響を及ぼす: The teacher *has* a great *influence* on [upon, over] his class. その先生は自分のクラスの生徒に大きな感化を与えている。

under the *influence* of ... [前] ...の影響を受けて: He did it *under the influence* of a strong passion. 彼は激情にかられてそれを行った。

④ (influential)

in·flu·ence: /ɪnflu(:)əns/ (㉞強勢は第1音節) [in (中へ) fluence (流れる); 天体から液体が人間の体内に流れ込み、運命に影響を与えたことから]

④ ㉞ (-s /-ɪz) 1 ㉞㉟ «...に対する» 影響, 感化; 作用 «on, upon» ▷ have [exert, exercise] a great [strong, bad] *influence* on ...に大きな[強い, 悪い]影響をもつ / What is the *influence* of home environment on children? 家庭環境が子供に与える影響は何か / protect children from the *influence* of violent films バイオレンス映画の影響から子供を守る / MTV has a positive *influence* on teenagers. MTVは10代の若者に明確な影響がある。

2 ㉞ «...に対する» 影響力, 支配力; 勢力, 威光, 威信 (authority) «over, with» ▷ exert enormous *influence* over government policies 政府の政策に強大な影響力を行使する / use one's *influence* with ...とのコネを使う。

3 ㉞ [通例単数形で] «...に対し» 影響力のあるもの [人], 影響するもの [人] «on, in» ▷ My dad was a major *influence* in my life.. 父は私の一生の中で最も大きな影響を与えてくれた人だ / Some of his classmates are a bad [good] *influence* on him. 級友の中には彼に悪い[良い]影響を与える者がいる。

4 ㉞ [占星]: (恒星が人の運命・性格に及ぼすと考えられている) 感化[影響]力。

5 ㉞ [電気]: 誘導, 感応。

under the *influence*: (1) («くだけて») «酒に» 酔っ払って: «麻薬などの» 影響を受けて «of» ▷ driving *under the influence* 飲酒運転 / educate children before they fall *under the influence* of the drug cul-

B 英和辞典

A 英和辞典

A英和辞典では *influence* を高校用基本語1000語の範囲に含まれる語として大きな活字, 色刷りで扱い***印をつけて重要語であることを示している。類義語にも注意を向けるよう促し, 語源欄で語源を解説し単語の記憶というコラムでは, 語幹 flu を含む類義語を示している。

一方, B英和辞典ではコーパス準拠の特徴が用例に現れている。頻度の高いフレーズ have [exert, exercise] a great [strong, bad] *influence* on... 「に大きな [強い, 悪い] 影響をもつ」がまず示される。そして What is the *influence* of home environment on children? の例文で the *influence* of + 名詞のパターン, さらに MTV has a positive *influence* on teenagers. の用例では, コーパスから確認される高頻度の positive との連結も示し have a positive *influence* on のフレーズを示し

ている。用例には時事的な例が示されており、生き生きとした生の例文といえるだろう。A英和辞典とB英和辞典を比較すると、B英和辞典は用例において格段に現実の使用を反映したものと見えよう。コーパス準拠の辞書の大きな特色のひとつは、現実の使用に即したフレーズや例文を提示できることである。発信に劣る日本人学習者にとってその意味で学習英和辞典の編纂に画期的な成果をあげるものである。辞書は学習者のために頻度の高いパターンやフレーズを明確に学習者に示すことが重要であるが、B英和辞典では *influence* とともに用いられる形容詞 *great, strong, bad* が示されている。実際に BOE で *influence* を検証してみると、*influence* は *major, great, considerable, strong, no* など影響を及ぼす「程度」を表す形容詞としばしば用いられることがわかる。

A英和辞典とB英和辞典を比較し、コーパスに準拠したB英和辞典では用例が現実の使用を反映していることを見たが、従来の辞書の編纂方針に従うと次のような問題点も生ずる。*under the influence of...* のような熟語はきわめて高頻度であるにもかかわらずB英和辞典ではそのことがユーザーにはわからない。これは熟語は従来、当該語の解説の後に来るという慣習に従っているためである。A英和辞典では *have influence on* も熟語のほうへ送られ *influence* で高頻度の二つのフレーズは記述の後半で扱われることになってしまう。熟語でも学習者にとって重要なものには何らかの表示をすることによって、それが重要な熟語であることを示すことができるであろう。

同様の問題は、語義の頻度表示で当該語の基本義より他の語義の頻度が高い場合にもその扱いが問題になる。B英和辞典では語義配列を頻度順におこない、「頻度的には第一義だが、その語義を理解するのに、後に出てくる原義を押しえておいたほうがいい場合には、原義との関連づけを最初に行なっ」て「*painfully**/peɪnf(ə)li/ [原義は2]」のように表示している。

pain-ful-ly*/peɪnf(ə)li/ [原義は2]
 一 難(*more ~; most ~*) 1 (望ましくない性質・状況を強めて)はなはだ: 痛いほど、痛切に: 身にしみて分かるほど(明らかで) ⇨ *be painfully slow* [shy] はなはだゆっくりとしている[内気である]/*I was painfully aware that I had no choice.* ほかに方法がないことは痛いほど分かっていった。
 2 痛み[苦痛]を伴って、痛[苦し]そうに: 痛みを感じるほど、遅しく ⇨ *walk slowly and painfully* ゆっくりと苦しそうに歩く/A stone caught him *painfully* in the back. 石が背中に命中して彼は痛そうだった。
 3 悲しく(いや)なるほど。4 苦勞[努力]して。

コーパスは典型的な語のパターンやコロケーション、現実の使用に即した生き生きとした例文を提示してくれるが、発信型の情報を盛り込む際にそれをどのように記述するかについてはなお課題も多い。以下そのような点を取り上げることにはしたい。

3. 語彙の意味と構造と辞書の記述

意味と構造の関連については Bolinger (1977) などが論じているが, Sinclair (1991:53) は multi-word items においても意味と構造が密接な関連があることを次のように述べている。‘It raised the prospect that there is a close correlation between the difference senses of a word and the structures in which it occurs. ‘Structure’ includes lexical structure in terms of collocations and similar patterns. ‘Senses of a word’ includes the contribution that a word may make to a multi-word lexical item.’ 語のパターンに関してはこれまで動詞型や文型の表示がされてきたが, ユーザーフレンドリーの立場からどのような文法表記するのが学習者にわかりやすいのだろうか。このことはまた, 選択制限の記述方法ともかかわってくる。たとえば, C英和辞典で動詞 *cause* を検索してみよう。

〔文型〕[*cause* + 名(人・物) + 名]または
 [cause + 名 + for 名(人・物)]〈人・物に〉〈問
 題・損害などを〉もたらす
 ◆ I don't want to *cause* you trouble.
 [≒ I don't want to *cause* trouble for
 you.] 私は君に迷惑をかけたくないんだ。

C英和辞典

学習者は【*cause* + 名(人・物) + 名】のパターンを知っておく必要がある。このようなパターン表示は語をどのように用いるのかを調べるときには有効であるが, それを学習者が記憶に結びつけることは難しい。選択制限を表す「問題・損害などを」の部分は, 次のように英語のままパターンと選択制限を記憶の方が有効と思われる。

cause sb /sth trouble/problem/damage (人・物に) 問題・損害などをもたらす

It *caused me* a lot of worry. そのことは私をたいへん心配させた。

このようにすれば, パターン, 選択制限, 用例の関連性がまとまりとして捉えられるであろう。上記のC英和辞典の記述では用例で *cause trouble* の例が提示されているが, 従来の英和辞典ではパターン表示と実際の用例が切り離されて記述されているために, 語とパターンの結びつきを認識するのに非効率な記述になっていないだろうか。パターンと意味はひとつにまとめてわかりやすく記述する必要がある。それは Sinclair などが指摘する構造と意味の結びつきを鮮明にさせることにもなる。

基本動詞 *find* には様々なパターンがあり, 初級・中級学習英和辞典でもかなり詳細に文型表示を示している。動詞型がどのように記述されているのかを検証すると, 従来の英和辞典では, V + O (名) + C (to be) 名・形, あるいは *find* + 〈人・物〉 + (to be) 名・形, 透明度の高いものでは *find* + O + (to be) + C のような文型表示を用いている。Sinclair (1996:

iv) が ‘verbs with similar patterns have similar meanings’ と述べているように初級・中級段階では意味を細分化してひとつひとつ語のパターンを示すよりも、最小の意味単位にまとめて語のパターンを提示するほうが学習者にはユーザーフレンドリーであろう。D英和辞典は透明度の高い文型表記でわかりやすいが、意味を中心に分類しており、同じ文型を取るものが重複して記述されている。

find [faɪnd]
 ④ (基本的意味は「見つける (discover either by searching or by chance)」)
 一 ④ (三単現 finds [faɪnz]; 過去・過去分 found [faʊnd]; 現分 find-ing [ˈfaɪnɪŋ])
 一 ④ ① (満例、進行形不可) (a) [find + O] (探して) …を見つめる、見つけ出す、探し出す: He found his lost key in the trash can. 彼はゴミ箱の中からなくしたかぎを見つけた。
 (b) [find + O + O / find + O + for ...] (人) … (もの)を見つけてやら、探してやる: Can you find me a hotel? = Can you find a hotel for me? ホテルを見つけてもらえますか。
 ② (a) [find + O] (偶然) …を見つめる、発見する; (人)に(出)くわす: I found a dime on the sidewalk. 私は歩道で10セント硬貨を見つけた / I found her in Cape Town. 私はケープタウンで偶然彼女に出くわした。(b) [find + O + C] …が…であることを見つける (O C は形容詞・分詞など): I found a cat asleep under the tree. 私は猫が木の下で眠っているを見つけた / They found the lost child hiding in the cave. 彼らはその迷子の子がその洞くつに隠れているを見つけた / The police found a gun hidden in his bed. 警察は銃が彼のベッドに隠されているを発見した。

③ (a) [find + O] (調査・研究して) (答えなど)を発見する、見つけ出す: The doctor found a cure for cancer. その医師は癌(がん)の治療法を発見した。(b) [find + 疑問詞節(句)] …かを見つけ出す、確かめる: Please find when that flight departs. その便がいつ出発するか調べてください。
 ④ (a) [find + that 節] (経験して) …であることがわかる、…と思う: I found (that) I was wrong. 私は自分が間違っているのがわかった / I find (that) it pays to be honest. 正直にしていればそれだけの報いがあると思う。(b) [find + O + (to be) + C] …が…だとわかる、知る、思う: We found the hotel very comfortable. (泊ってみると) ホテルはとても快適だった / We found him (to be) a kind man. 彼は親切な人であることがわかった (= We found that he was a kind man.) / How do you find your new job? — It's a real challenge to me. 新しい仕事はどうですか — やりがいがあります / I find it difficult to believe him. 彼の言うことは信じがたい。

D 英和辞典

たとえば「(探して) …を見つめる」と「(偶然に) …を見つめる」は同じ動詞型、find + O をとるが語義を優先させて別語義で示されている。受信重視であれば意味を細分化して示すのがよいが、発信を重視するならば、パターンと意味をできるだけまとめて示すのがよいであろう。そのほうが初歩の学習者には負担が少なく基本的な語の使い方を身につけることができると思われる。類似の意味をまとめ、find のパターンを示すと次のように表示できる。

find [faɪnd] 動[T] 1. …を見つめる; …を発見する 2. わかる

1. **find someone / something** (人・物)を見つめる、(探している)(人・物)を見つめる; (偶然に)見つける; 発見する

find someone something; find something for someone (人)に(物)を見つけてあげる

find someone [something] doing (人・物)が…しているのに気づく

2. **find (that) … (経験や調査によって) …とわかる**

find someone [something] (to be) 形 (人・物)が…であるのがわかる

find it difficult [hard / easy / impossible etc] to do … するのがむずかしい[たいへん / 簡単 / 不可能だ]ということに気づく

1. **We found a really good bar near the hotel.** ホテルの近くにすごくいいバーを見つけました。

I can't **find** the car keys. 車の鍵が見つかりません。

I thought I had lost my wallet, but I **found it lying** on the floor.

財布をなくしてしまったと思ったら、床に落ちているのに気づきました。

We have to **find him a job**...わたしたちは彼に仕事を見つけてあげなければなりません。

2. He **found (that)** he was shivering. 彼は自分が震えているのがわかった。

I **found people to be charming** and very friendly. 私は人々が魅力的でとても人懐っこいの
に気がつきました。

At my age I would **find it hard to** get another job...私の年では別の仕事に就くのはたいへん
だということに気づくでしょう。

コーパスに準拠した辞書編纂では頻度別表示を重視する傾向があるが、さらに初級・中級辞書では意味のまとまりを大きくとらえ、頻度の特に高いパターンがある場合には符号などを用いて重要度を示すのがよいであろう (difference p.14-5 参照)。

resolve は意味によってパターンが明確に変わる動詞のひとつである。この動詞を正しく使うには動詞のパターンをしっかりと記憶しておく必要がある。従来の辞書ではパターンと意味の違いは注意深く読めばわかるが、あまり明瞭ではない。学習者に意味とパターンの違いが明確になるよう記述した試案では次の通りである。

resolve [rizálv | -zǒ | -] 動 [T,I]

1. **resolve + something** (<resolve a problem / dispute / conflict etc (問題・論争・対立など)を解決する>)

2. **resolve to do** ...しようと決定[決心]する, ...すると決議(決定)する

resolve that ...ということを決意[決心]する, ...を決議する

3. **resolve(something)into something** ...を(...に)分解する

1. We need to **resolve this problem** quickly. わたしたちはこの問題を早急に解決する必要がある。
る。

That **conflict** has not been **resolved**... その対立はまだ解決されていない...

2. She **resolved to** go with him. 彼女は彼らと一緒に行こうと決心した。

I **resolved that** I would join the volunteer group. 私はそのボランティアグループに加わる
ことを決心した。

The government **resolved that** imports should be expanded. 政府は輸入拡大を決議した。

3. Water **resolves into** hydrogen and oxygen. 水は分解して水素と酸素になる。

第2項目の「決心, 決意」「決定, 決議」の意味は *LDOCE* (2003) や多くの英和辞典では

項目を分けている。しかしパターンはどちらも同様の *resolve to do*, *resolve that* 節をとる。「決める」主体が個人、機関の違いはあるものの、同じ意味領域に属するものであり、意味と構造をなるべくまとめて示すほうが初歩の学習者にはわかりやすいであろう。BOEを検索すると、1では能動形、受動形が共に現れるので用例では両方を示してある。意味とパターンを簡潔に記述することが重要である。

4. フレーズ、パターンにおける機能語 (function word) と内容語 (lexical word) の扱い

磐崎 (Asahi Weekly, Sunday August 17, 2003) は「よく2語以上からなる表現を何でも成句とかイディオムと呼び、ひとつだけの単語と区別することがあります。これは誤解しやすい表現です。実際には、どんな単語でも、別の単語とのつながりで覚えるほうが得策です」として、*pay attention to A* はまとめて覚えるが *wag* は単独で覚えることに注意を促し、*wag its tail* のように覚えるよう学習者に注意を促している。

上述のB英和辞典はコーパスに準拠して、前述の *have [exert, exercise] a great [strong, bad] influence on...* のフレーズでは当該語と前置詞の結びつきのみをイタリック体で示し、動詞 *have*, *exert*, *exercise* との連結には特に注意を促していない。従来の英和辞典は語彙的連結より文法的連結をより重視してきたように思われる。たとえば名詞 *feature* を取り上げると、多くの英和辞典では *feature of*, *feature on [about]* のように *function words* (機能語) である前置詞との連結がボールド体・イタリック体で示されている。

fea·ture

/fi:tʃə/ (～s /-z/)

ラテン語で「作られたもの」の意から「顔のつくり」
3, 「顔だち」4 → (物の)「特徴」1 → (他と際立っているもの) → 「呼び物」2 となった。

- 1 ㊦ (著しい)特徴, 特色: *geographical features* 地勢 / *Earthquakes are a feature of life in Japan.* 地震は日本の生活にはつきものである。
- 2 ㊦ (番組中の)呼び物, 目玉, 特別記事(新聞・雑誌などの); (映画館で上映される)長編(劇)映画, (プログラムの中心となる)本編, 主要上映[公開]作品: *Her dance was the main feature on the program.* 彼女の踊りはそのプログラムの呼び物だった / *The magazine will run a special feature on [about] global warming.* その雑誌では地球の温暖化についての特別記事を掲載する予定だ。
- 3 ㊦ 顔のつくり(の1つ)【目・鼻・口・耳など】: *Her mouth is her best feature.* 彼女は口もとがいちばん美しい。
- 4 [複数形で] 顔だち, 目鼻だち, 容貌(話): *a boy with handsome features* 美少年。

A 英和辞典

しかし、「特徴」を強調したり、それを説明するのに用いられる *a special feature*, *the main feature*, *an important feature*, *the best feature*, *a key feature*, *a striking feature*, *a new feature*, a

common feature などコーパスから得られる頻度の高い lexical words (内容語) の連結表現のいくつかは用例で扱われているが、コロケーションに学習者の注意を向けるような記述にはなっていない。

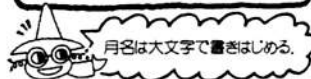
中学校で学習する「月」を表す基本語においても日付に on, 月の前には in というような前置詞の使い分けに注意が促されてきた。中学生向け E 英和辞典では, January, July が次のように記述されている。

:Jan-u-ar-y ① 1月
in January

[dʒænjʊəri チャニューエリイ・əri・アリイ]
① 1月 (> 略語は Jan.). → month (表)
January is the first month of the year. 1月は年の最初の月だ。
We have a lot of snow in January. 1月には雪が多い。> 「…月に」というときは in を用いる。
He was born on January 1. 彼は1月1日生まれた。> 特定の日がつくときには on を用いる, January 1 は January (the)

firstと読む。

- in January
- in January 1
- 特定の日がつくときは on を用いる。
- on January 1



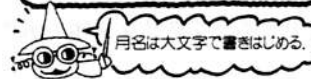
月名は大文字で書きはじめる。

音読 ローマ神話の神ヤヌス (Janus) からきた語。この神は2つの顔をもち、過ぎ去った月と新しい月をともに見ることができる。

:Ju-ly ① 7月
in July

[dʒʊləi チュライ]
① 7月 (> 略語は Jul.). → month (表)
July 4 is Independence Day in the U.S. 7月4日はアメリカ合衆国では独立記念日だ。
Our summer vacation begins in July. 私たちの夏休みは7月に始まる。> 「…月に」というときは in を用いる。
Kate was born on July 2. ケートは7月2日に生まれた。> 特定の日がつくときは on を用いる, July 2 は July (the) secondと読む。

- in July
- in July 2
- 特定の日がつくときは on を用いる。
- on July 2



月名は大文字で書きはじめる。

音読 ジュリアス・シーザー (Julius Caesar) の名にちなんで名づけられた。

E 英和辞典

これ以外にも「月」に関連した頻度の高い表現として early [late] January, in the middle of January; mid-January, until [by] January 31, from January 1, since January 1996 などが見出される。in と on を正しく使えることは重要であるが、あわせて他の頻出する表現にも注意を促すべきであろう。

同様に, man | woman のような基本語はこれまで単に語義を載せているに過ぎなかった。しかし, コーパスで man を検索すると a young/ old man, an elderly man/ a middle-aged man のような年代を表す表現, a tall/short man, a fat man/ thin man, a handsome man のように体型・外見をあらすフレーズ, さらに a married/ single man, an attractive man, man in suits のような有益なフレーズ情報が得られる。

二つまたはそれ以上の語がひとつのまとまりを持つものを Schmitt (2000) は multiword units, Moon (1997) は multiword items と呼んでいる。Moon は multiword items を compounds, phrasal verbs, idioms, fixed phrases, prefabs に分類している。Nattinger and DeCarrico (1992) は lexical phrase という用語を用いて, polywords, institutionalized expressions, phrasal constraints, sentence builders に分類する。たとえば, a year ago, a month ago のようなフレーズは, Schmitt や Moon ではどこにも属さないが, Nattinger and DeCarrico では phrasal constraints という分類—中程度から長い句まであり 1, 2ヶ所がさまざまな語や句で埋められる—to 含めることができる点でフレーズをより大きな枠組みで捉えていると思われる。

このような phrasal constraints の記述をどのように辞書が扱っているかを検証すると重視の

friend [S] [W] /frend/ n [C]

1 **PERSON YOU LIKE** someone who you know and like very much and enjoy spending time with

a friend of mine/yours/Billy's etc
best friend (=the friend you like the most)
good/close friend (=one of the friends you like the most)
old friend (=a friend you have known for a long time)
trusted friend
lifelong friend (=someone who is your friend for the whole of your life)
friend of a friend
circle of friends (=all the friends someone has)
a mutual friend (=someone who is a friend of both you and someone else)
a childhood/boyhood/girlhood friend

Jerry, this is my friend Lucinda. | Is this man a friend of yours? | Julia was the wife of his best friend. | One of her closest friends died at the weekend. | I didn't expect this treatment from my father's oldest friend. | She told this to only a few trusted friends. | I met Stephano through a friend of a friend. | Few people smoke in my circle of friends. | Jill is a mutual friend of ours.

2 be friends (with sb) to be someone's friend: *I've been friends with the Murkets for twenty years.*

3 a) make friends to become friendly with people: *Jenny has always found it easy to make friends at school.* b) make friends with sb to become friendly with someone: *He made friends with an old fisherman.*

LDOCE (2003)

friend /frend/ noun ★★★

1 [C] someone you know well and like that is not a member of your family: *She's visiting friends in Illinois.* ♦ **close/good/great friend** *Helga is a close friend of mine.* ♦ **friends and relatives/neighbors/acquaintances** *We stayed with various friends and relatives.* ♦ **friend of the family/family friend** *May I introduce Peter Flint, a very old friend of the family.* ♦ **old friend** (=one that you have had for a long time) *He's meeting an old friend for lunch.* ♦ **circle of friends** (=group of friends) *She has a wide circle of friends.* 1a. used for referring to a person without mentioning their name: **ACQUAINTANCE:** *I'll ask my friend at the office if she knows.* ♦ *The letter was signed simply "A friend."* 1b. **friends** [plural] if two people are friends, each one is a friend of the other: *They used to be good friends, but they've fallen out recently.* ♦ *A lot of couples remain friends after their marriage ends.* ♦ ♦ with *I've been friends with him for years.*

MED (2003)

friend /frend/ noun

PERSON YOU LIKE 1 a person you know well and like, and who is not usually a member of your family: *This is my friend Tom.* ♦ *Is he a friend of yours?* ♦ *She's an old friend* (= I have known her a long time). ♦ *He's one of my best friends.* ♦ *a close/good friend* ♦ *a childhood/family/lifelong friend* ♦ *I heard about it through a friend of a friend.* ♦ *She has a wide circle of friends.*—see also **BOYFRIEND, FAIR-WEATHER, FALSE FRIEND, GIRLFRIEND, PENFRIEND, SCHOOL FRIEND, BEFRIEND**

OALD (2003)

in AM, use refrigerator

friend /frend/ (friends) 1 A friend is some-

one who you know well and like, but who is not related to you. □ *I had a long talk about this with my best friend...* *She never was a close friend of mine.* ...*Sara's old friend, Ogden.* 2 If you are friends with someone, you are their friend and they are yours. □ *I still wanted to be friends with Alison...* *We remained good friends...* *Sally and I became friends.*

3 The friends of a country, cause, organization, or a famous politician are the people and organizations who help and support them. □ ...*The Friends of Birmingham Royal Ballet.* 4 If one country refers to another as a friend, they mean that the other country is not an enemy of theirs. □ *The president said that Japan is now a friend and international partner.* 5 If you make friends with someone, you begin a friendship with them. You can also say that two people make friends. □ *He has made friends with the kids on the street...* *He had made a friend of both girls.*

◆◆◆
N-COUNT

N-PLURAL:
of N with n

N-PLURAL:
N-IN-NAMES

N-COUNT
+ ally

PHRASE:
V inflects,
usu PHR with n

COBUILD (2003)

度合いは辞書により若干異なる。それは辞書がどのようなユーザーを対象としているかの違いでもある。たとえば *friend* の扱いを見てみよう。BOE から得られるデータをもとにコロケーションを見ると *a friend of mine*, *one's best friend*, *a close [good/great] friend*, *old [new] friend*, *a mutual friend*, *Dear friend* などが得られる。*LDOCE* (2003) ではこのような連結をコラムとして取り上げ、ボールド体で示している。*MED* (2002) でもボールド体で *close/good/great friend*, *friends and relatives/neighbors/acquaintances*, *friend of the family/family friend*, *old friend*, *circle of friends* を示している。*OALD* (2000) では例文のなかでボールド体で示すもの、フレーズのみ普通の字体で示すものとに分かれる。上級向けの *COBUILD* ではこのようなコロケーションは例文にはさりげなく扱われているが、特に学習者に注意を促すようには記述されていない。これは *COBUILD* が *advanced students* のための辞書であることと関連があろう。

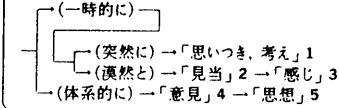
一方、初級・中級英和辞典に目を向けると *phrasal constraints* を『ベーシックジーニアス英和辞典』(2002) のようにコラムで取り上げているものもあるが、他の辞書ではそれほど積極的に取り上げられていない。特に中学生用の辞書では、*a friend of mine* の説明は重点的に扱っても上記のようなフレーズはあまり扱われていないのが現状である。発信では知っておきたいこのようなフレーズがなぜ英和辞典で積極的に扱われてこなかったのかについては、辞書の編纂にコーパスを用いていないということもあろうが、受信型の辞書では *good friend*, *best friend*, *old friend* のようなフレーズは意味をとるのになんら問題がないので載せてこなかったということも考えられよう。発信を重視した初級・中級学習辞典ではこのような一見当たり前のフレーズも充実させることが求められるであろう。

idea の扱いも同様である。BOE から得られるデータをもとにコロケーションを見ると *idea of-ing*, *idea that* 節, *idea wh*-節, *idea to do*, *have no idea* (that 節) などの文法的連結とともに、*a good [bad] idea*, *a new [old] idea*, *a great [brilliant/excellent] idea*, *a clear idea*, *a general idea*, *an original idea*, *a main idea*, *a rough idea* などの語彙的連結が得られる。A 英和辞典の記述をみると文法的連結(ボールド体)が重点的に扱われていることがわかる。ちなみに、*OALD* (2000), *MED* (2002) も A 英和辞典と同様に文法的連結を重視しているが、*LDOCE* (2003) では語彙的連結も積極的に取り上げている。

i: de a

/ɑ:di:ə, ɑ:di:ə | ɑ:di:ə/ 図 (~s /-z/)

ギリシャ語で「物の外見」の意 (→ ideal 語源)
(頭に浮かぶもの)



1 ㊦ (頭に浮かぶ) 考え; アイデア, 着想; 思いつき; 提案 (→ 類義語): 'hit on [come up with] a great idea すばらしい考えを思いつく / That's a good idea. それはよい考えだ / She is full of new ideas. 彼女は新しいアイデアをたくさん持っている / Whose idea was it to take the subway? 地下鉄で行こうというのはだれの考えだったの / Do you have any ideas for this sales promotion? この販売促進について何かアイデアはありませんか / The police have the idea that it was an inside job. <N+that 節> 警察はそれは内部のしわざと見ている。

2 ㊦ ㊧ 見当, 想像, 理解: Dad just left. Do you have any idea where he went? <N+wh 句・節> お父さんが出かけたんだけど, どこへ行ったか知らない? (語法) wh 節の前に of が来ることもある: Do you have any idea of where he went? <N(+of)+wh 句・節> // I didn't have the slightest [faintest] idea who he was. ㊨ 彼がだれなのかまったく見当がつかなかった / (置換) The very idea of seeing him makes me excited. = The very idea that I will see him makes me excited. <N+that 節> 彼に会うと思うだけでわくわくする / (置換) 'I have [I've got] no idea. = I don't have any idea. (考えたりれど) 私にはわかりません。

3 ㊦ (...のような) 感じ, 予感, (漠然とした) 考え: I have an idea (that) something will happen today. <N+(that) 節> きょうは何か起こりそうな気がする / Columbus had the idea that by sailing to the west he could reach India. コロンブスは西に航海すればインドに行けると考えていた / Where did you get that idea? ㊨ どうしてそう思ったの?

A 英和辞典

従来の英和辞典はどちらかといえば文法的連結, 前置詞など機能語との連結を詳細に記述してきた傾向がある。しかし, コーパスから得られるデータをもとに lexical words の結びつき, 語彙的連結をより充実させることが望まれよう。

5. 副詞・形容詞の扱い

これまで副詞・形容詞は英和辞典においてあまり重要視されてこなかった。コーパスを検索すると特定の形容詞や動詞が典型的に副詞と連結して用いられる例, 名詞がしばしば高頻度で特定の形容詞と連結する例が見られる。たとえば make a noise は高等学校でも習うフレーズであるがこれをコーパスで検索 (make@+2noise) してみよう。

number of toads as making a screaming noise. Some had their limbs burned off. were split up and couldn't make much noise. We don't sit in the best seats -- chat. I prefer to dance and make a noise. We had a few dances together and down to eat when he made the rudest noise, then excused himself in my voice. for your toys, even though they make noise. Have you ever played with reckons husband Ron makes too much noise and scares the fish from her 84, has asked me to make a big noise about how they helped her. The said it was Geraint who made all the noise. He often hammered on the floor the cup against Bradford made enough noise so it's going to be awesome with so <p> Supporters can make as much noise as they want but I can't remember <p> Supporters can make as much noise as they want but I can't remember added: Her biggest fear was making a noise in case one or both of her sons to be really into sex and make more noise than needed. <p> I LOVE them to be brigade failed to make enough noise. <p> But Tim Henman suffered the brigade failed to make enough noise. <p> But stunned Tim Henman boy in the stands was making lots of noise, barracking me like crazy. I tried fell into the pool making a terrific noise. <p> Luckily it missed the children site. </h1> Shot dead for making noise. </dt> 17 June 2001 </dt> <p> another because they were "making a noise" near his home in Rio de Janeiro. I don't really want to make too much noise about Glen because that alerts and below your hand making a clacking noise. Hours of fun and lots of trips to home match that they can make a huge noise. <p> Parma springs to my mind but musician Brian Fleming made a big noise by creating the world's largest

コンコーダンスラインから明らかなように make a noise はしばしば, much, too much, enough, lots of, huge, big など音が大きいこと, screaming, terrific など不快な音を表す形容詞とともに用いられることがわかる。

difference を見てみよう。従来の英和辞典では difference between, difference in などの前置詞との連結, make a difference, split the difference, with a difference などの熟語に重点が置かれている。一方 LDOCE (2003) の記述を参照してみる。

dif-fer-ence [S] [W] /ˈdɪfərəns/ n

1 [C,U] a way in which (two or more people or things are not like each other; **反** similarity

big/major/important/significant difference
small/minor difference
subtle difference (=not obvious)
marked difference (=very noticeable)
there's no difference (=they are the same)
there's very little difference (=they are very similar)
there's a world of difference (=they are very different)
know/can tell the difference (=be able to recognize the difference)
spot the difference (=notice the difference)

[+between] *The main difference between the groups was age. | There's a big difference between knowing that something is true, and being able to prove it. | [+in] Researchers found a number of important differences in the way boys and girls learn. | subtle differences in meaning | There was a marked difference in his behavior toward me. | There was certainly no difference between them in terms of intelligence. | There is very little difference between the parties on green issues. | There's a world of difference between us. | Do children know the difference between right and wrong? | See if you can spot the difference between these two pictures. | Class differences still play an important role in society.*

2 [singular, U] the amount by which one thing is greater or smaller than another: **difference in age/size etc** *There's not much difference in price. | There's a five-hour time difference between London and New York. → split the difference at split¹ (e)*

3 **make a/the difference** to have an important effect or influence on something or someone: *Whatever she did, it made no difference. | [+to] One more person wouldn't make any difference to the arrangements. | [+between] It could make the difference between missing your train and getting to work on time. | Having a good teacher has made all the difference for Alex (=had an important influence).*

4 **it makes no difference to sb** used to say that it does not matter to someone which thing happens, is chosen etc: *Morning or afternoon. It makes no difference to me.*

5 **our/your/their differences** disagreements: *We've had our differences in the past, but we get on OK now. | settle/resolve your differences (=agree not to argue any more)*

6 **difference of opinion** a slight disagreement: *There have been some differences of opinion as to exactly how the money should be spent.*

7 **with a difference informal** used to describe something which is interesting or unusual, especially in a good way: *an adventure holiday with a difference*

small / minor difference のような形容詞との連結, There's no difference, There's very little difference など multi-word phrase が充実した記述で示されている。日本人学習者にとってよりわかりやすく記述するためには difference と連結する形容詞をさらに意味論的な観点から分類することができる。日本人学習者は有効な情報が英英辞典に載っていても、どれが重要であるかを整理して取り出すことができない可能性がある。日本人学習者にはコーパスから得られる情報をよりわかりやすく示す必要がある。BOE をもとに difference を意味論的な観点から形容詞との連結も含めて記述したのが次の例である。

difference 名 違い, 相違

◆ **difference between sth / sb** ...の間の違い

What is the **difference between** the two? 二つの違いは何ですか。

◆ **difference in sth** ...の違い

The **difference in** price is extremely small. 値段の違いはごくわずかです。

There is a difference... 違いがある

There is a difference between the two theories. 二つの理論には違いがある。

The difference is that...違いは...である

The difference is that this is a true story. 違うのはこれが本当の話だということです。

tell the difference 違いを区別する

How do you **tell the difference** between true and false? 正しいか誤りかの違いをどのように区別するのですか。

see a/the difference 違いがわかる

I don't **see the difference**. 違いがわかりません。

◆**make a difference** 相違を生ずる, 影響がある

The environment may **make a difference** in IQ. 環境によって IQ に違いが出るかもしれません。

形容詞との連結 — 「大きな違い」「おもな違い」など違いがあることを強調する。

big [much, huge] difference 大きな相違

significant [major, main] difference おもな相違

— 「違い」が少ないことを表す形容詞との連結。

no [little] difference 違いがない [ほとんどない], **the only difference** 唯一の違い

— その他の形容詞との連結。

important difference 重要な違い

real difference

(◆印は特に頻度が高いことを表す)

ちなみに、形容詞 **different** も副詞との連結が重要である。「違いが大きいこと」をあらわすフレーズで **very [quite, completely, totally, entirely] different**, 「違いが小さいこと」をあらわすフレーズでは **slightly [little, no] different** が頻出する。

feel と形容詞との連結では **feel tired / sick / happy / sad / hungry / well** などが頻度の高い連結であるが、**feel tired** を検索するとしばしば程度の副詞とともに用いられていることがわかる。**feel very [so / really / extremely / rather / a bit] tired** 副詞は感情的なニュアンスを伝えるのに大切な機能を果たしている。初歩の段階からこのような連結に注意したい。

absolutely, quite がどのような語と連結するか、その語感をつかむことは学習者にとってむずかしい。**absolutely** と連結する形容詞、代名詞、副詞は次のような基本的に二つの意味グループに分類することができる。肯定的な物事の判断や感情、さらに **right, certain, essential** など明確に区別できる非段階的意味を表す語、否定的な物事の判断や感情を表す語とともに用いてその意味を強調する。

肯定的な物事の判断や感情，明確に区別できる非段階的の意味を表す例：

absolutely right [necessary / clear / certain / essential / everything / fabulous /
sure / delighted / brilliant / free / yes / marvelous / superb / perfect etc.]

否定的な物事の判断や感情を表す例： . :

absolutely no [nothing / not / furious etc.] :

一方, quite は程度に幅のある語を主に肯定的に強調するのに用いられる。たとえば absolutely とは連結しない well, happy, good など段階的な形容詞とも連結する。コロケーションを示せば次のとおりである。

quite a lot [a few / different / a bit / well / sure / happy / clear / good / often / right / simply etc.]

quite different は高頻度の連結を示しているが，用例を検証すると肯定的な文脈で用いられることが多いことは興味深い（下線部が肯定的な部分）。下記の用例はそのまま英和辞典の記述には使えないがコーパスを検証することにより精度の高い分析ができる例証である。

(1) The experience of young fathers today is *quite different* from their fathers' generation: all the fathers we interview felt they have a more positive... — Guardian

(2) It would have been extravagant to change all the furniture and the dressing table and wardrobe were in good condition, but *quite different* in style. Once the moulding and handles were removed, the wardrobe doors were perfect for some sort of decoration,... — British Magazine

また, highly のような副詞は初級英和辞典では「①大いに，非常に；高度に②高く評価して」のように意味しか載せていないものがほとんどであるが，ここからは学習者は発信で用いる場合にどのように用いたらよいかという情報は得られない。highly の場合 highly educated, highly reliable のような形容詞との連結，また it is highly unlikely [likely] that... 「...ということはまずありえない [大いにありうる]」のようなフレーズに注目することにより発信に生かすことができるであろう。

名詞 mistake はコーパスを検索すると「どのような誤りか」を表す形容詞としばしば連結することがわかる。「誤りの重大性」を表す連結には次のようなものがある。

a big [terrible / serious / great / fatal / bad] mistake, a common mistake, a fundamental mistake

これまでの初級英和辞典では make a mistake, correct a mistake, admit one's mistake など，動詞との連結は扱っても形容詞との連結は扱われていない場合が多い。

以上，副詞・形容詞の扱いをみてきたがコーパスを用いることにより感情の機微や様々の

程度をあらわす表現などを現実の用法に即して提示できるようになるといえよう。

6. 時事的なフレーズ, 日常生活により密着した語彙, フレーズ

初級学習英和辞典は教室での学習語彙に重点を置いているが, 社会的なコンテキストで用いられる語彙も積極的に取り入れるべきであろう。たとえば Internet は現代社会で日常的に使われる語彙である。コンコーダンスラインからは on the Internet, be available on the Internet, access (to) the Internet などの頻出するフレーズが見出される。このようなフレーズは積極的に初級・中級英和辞典にも導入するべきであろう。

emergency は複合語として日常生活, 時事的な脈絡で用いられる語彙が多数見出される。次はそのような複合語を関連語として示したものである。

emergency 名 [C] 緊急時, 非常時

a state of emergency 緊急事態: The government has declared **the state of emergency**. 政府は緊急事態を宣言した。

in an emergency 緊急の場合には (in case of emergency も用いられる. この場合は無冠詞)

call [call for / hold] an emergency meeting 緊急の会議を招集する

関連語 **an emergency session** 緊急会議 **an emergency room** 救急治療室 **an emergency aid** 緊急援助 **an emergency landing** 緊急着陸 (make an emergency landing 緊急着陸をする) **emergency surgery** 緊急手術 (have [undergo] emergency surgery 緊急手術を受ける)

複合語に関しては, 従来の学習辞書は意味を載せるのみでコロケーションはあまり充実していないように思われる。make an emergency landing, have [undergo] emergency surgery などのコロケーションをあわせて記述することも重要であろう。たとえば, コーパスを検証すると blood pressure では check one's blood pressure / take blood pressure のようなコロケーションが重要であるが「血圧」という意味のみを載せている学習辞書がほとんどである。

meal はきわめて日常に密着した語彙であるがその扱いを初級者用学習辞典でみてみよう。

meal /mi:l/ ミール ㊦ (複 meals /~z/) ㊦ 食

事: (1食分の)食べ物。

a light **meal** 軽い食事。

eat between **meals** 間食をする。

We 'eat [have] three **meals** a day.

私たちは1日に3度食事をする。

ここに注意!

「食事ができましたよ」は朝食などそれぞれに応じて Breakfast [Lunch, Supper, Dinner] is ready. と言い, Meal is ready. とは言いません。

We eat [have] three meals a day. の用例は eat [have] three meals の使い方を示したものであろうが、このような文を実際に発話する場面はまずないといってよいだろう。コーパスで検索した資料を基に meal の記述を示したものが次の例である。

meal 名 食事

an evening meal 夕食: The price includes a twin room for one night, breakfast and **an evening meal**. 料金には一泊のツインルーム, 朝食と夕食が含まれます。

a main meal 主な食事: Lunch is the **main meal** of the day. 昼食が一日の主な食事です。

a light meal 軽い食事: If you're hungry, have **a light meal** or try drinking a glass of milk. おなかがかすいているなら軽い食事を取るか牛乳を一杯飲んだらどう。

a three[four]-course meal 三品 [四品] コースの食事: Enjoy a **three-course meal**... 三品コースの食事をお楽しみください...

go out for a meal 食事に出かける: Let's **go out for a meal** tonight. 今夜食事に出かけましょう。

eat between meals 間食をする: Do you **eat between meals**? 間食をしますか。

初級・中級学習辞典は記述が語彙習得と連動していることが大切である。具体的に言えば、それは意味のわからない語彙を引いて調べるのみならず、引くことによって関連した使い方を知ることのできる辞書である。Susan Hunston (2002:179) は DDL (Data-driven learning) の教授法に関して、Salt water has a lower freezing point than normal water. という文章が出てきたとき教師は freezing point とあわせてその close relatives である boiling point, melting point などに注目させることを説いている。コーパスから帰納してこのような用例をあわせて学習者に提示することが大切である。動詞 heat, mix, add は料理のコンテキストでしばしば用いられる。cook を記述する際にはあわせてこのような動詞について学習者へ注意を促すことが学習の興味を高めるであろう。

cook 動 [T,I](熱を加えて)料理する, (食事)を作る

cook (something) for five minute (...を) 5分間料理する

cook in salt[olive oil] 塩[オリーブオイル]で料理する **cook in** a preheated oven at 300.F.あらかじめ華氏300度に温めたオーヴンで料理する

Stir in lemon juice and **cook until** almost dry. レモン汁をかき混ぜ水分がなくなるまで料理します。

Cover and cook at 180c(350f) mark 4 for about 10 minutes. ふたをして(オーヴンを) 4にあわせ180度(華氏350度)で約10分料理してください。(調理法の説明書き)

In fact she didn't know **how to cook** until she came to this country. じつは彼女はこの国に来るまで料理の仕方を知りませんでした。

関連表現 heat, mix, add はしばしば料理で用いられる。

Cook over **low [high] heat** for 10 minutes. とろ火[強火]で10分間料理してください。(heat は名詞)

Heat the olive oil in a saucepan and... シチューなべでオリーブオイルを温めてください。(heat は動詞)

Mix the eggs with flour. 卵と小麦粉を混ぜてください。

Add a little milk. ミルクを少し加えてください。

料理の関連語彙 **bake**(ケーキなどを)焼く **roast**(肉などを)焼く **broil/grill**(直火で)焼く **boil** 煮る, ゆでる **steam** 蒸す **stew**(とろ火で)煮る **deep-fry**(魚や肉を)油で揚げる **fry**(フライパンなどで)焼く, いためる

7. おわりに

コーパスに準拠した発信型の初級・中級英和辞典にどのような情報を盛り込み、どのような記述をしたらよいのか、コーパスのデータをもとに考察してきた。日本人学習者が発信語彙を強化するためには、そのための新たな辞書の編集の仕方が求められるであろう。そのためにはコーパスのデータに加え、user がどのように辞書の情報を利用しているのかといった調査も必要になるであろう。今回は取り上げなかったがコーパスの発展によりこれまで英和辞典の編集で限界があった口語で頻出する **lexical phrase** を検索することが可能になってきた。そのような **lexical phrase** の記述を充実させることも今後の辞書の課題である。“Do you know what I mean?” “I know what you mean.” はきわめて頻度の高い **lexical phrase** であるが、従来の英和辞典には載っていない例である。また **information** を検索すると、広告などでしばしば用いられる、**For further [more] information, contact 071 435 7985.** が見出されるが英和辞典ではあまり扱われていない。Lexical phrase についてはまた稿を改めて述べることにしたい。

参考文献

- Bolinger, D. (1977) *Meaning and Form* London: Longman
 Hunston, S. (2002) *Corpora in Applied Linguistics* Cambridge: Cambridge University Press
 Moon, R. (1997) 'Vocabulary connections: multi-word items in English' *Vocabulary*, eds. by Schmitt, N and M. McCarthy, Cambridge University Press
 Nattinger, J. R. and J. S. Decarrico (1992) *Lexical Phrases and Language Teaching*, Oxford : Oxford University Press
 Pawely, A. and F. Syder (1983) 'Two puzzles for linguistic theory: nativelike selection and native fluency' eds.

- by Richards, J. and R. Schmidt, *Language and Communication* London and New York: Longman
- Schmitt, N. (2000) *Vocabulary in language Teaching* : Cambridge University Press
- Sinclair, J. (1991) *Corpus Concordance Collocation* Oxford: Oxford University Press
- Sinclair, J. (1996) *Collins Cobuild Grammar Patterns 1: Verbs*: Haper Collins Publishers
- Willis, D. (1990) *The Lexical Syllabus* London: HaperCollins Publishers
- 赤野一郎 (2002) 「理想的な学習英和辞典を求めて」 *SELL : Studies in English Linguistics & Literature* 19号 京都外国語大学英米語学科研究会
- 磐崎弘貞 Asahi Weekly 2003年8月17日号
- 竹蓋幸生 (1982) 『日本人英語の科学』 研究社出版
- 大学英語教育学会基本語改訂委員会編 (2003) 『大学英語教育学会基本語リスト (JACET 8000)』 大学英語教育学会
- 望月正道他 (2003) 『英語語彙の指導マニュアル』 大修館書店

辞書

- Collins COBUILD English Dictionary* (2003) London: Harper Collins
- Longman Dictionary of Contemporary English* (2003) London: Longman
- Macmillan English Dictionary* (2002) Oxford: Macmillan
- Oxford Advanced Learner's Dictionary* (2000) Oxford: Oxford University Press
- 『アルファフェイバリット英和辞典』 (2003) 東京：東京書籍
- 『ウィズダム英和辞典』 (2003) 東京：三省堂
- 『ジュニア・アンカー英和辞典』 (1998) 東京：学習研究社
- 『ジュニアプログレッシブ英和辞典』 (2003) 東京：小学館
- 『ニュープロシード英和辞典』 (1994) 東京：ベネッセ
- 『ベーシックジーニアス英和辞典』 (2002) 東京：大修館書店
- 『ライトハウス英和辞典』 (2002) 東京：研究社
- 『ユニコン英和辞典』 (2002) 東京：文英堂